

特集 武雄の偉人

日本が近代化へと大きく転換した幕末・明治維新期。現代日本の基礎が確立されたこの時代に、武雄で生まれた人たちが大きく関わっていたことをご存じでしょうか。

慶応三年十二月九日（西暦一八六八年一月三日）に出された王政復古の御詔により、江戸幕府が廃止され、新しい政府の樹立が宣言されました。

その背景には、それまで長い間鎖国を続けてきた日本と、海外進出を進めてきた西洋諸国との国力のへだたりに大きな脅威を抱き、日本を変えようとしていた多くの人々の熱い思いがありました。

王政復古の御詔の後、この変革に不満を抱く旧幕府側と新政府側の人々により戊辰戦争が起こります。しかし、その混乱が収まったことで日本は本格的に近代化の道を歩み始めたのです。

幕末から明治維新にかけて活躍した武雄出身の人々を武雄に残る資料とあわせてご紹介します。



【監修】
川副 義敦
武雄市図書館・歴史資料館
歴史資料専門官

▲錦絵：皇国一新見聞誌 佐賀の事件（武雄市蔵）

明治新政府が成立したものの、理想とはほど遠い現状に不満を募らせた佐賀の士族らが起こした乱。時代が大きく変化した幕末・明治維新期の佐賀における混乱を示す。

